

アワビ増殖試験

担当者 技師 高橋 邦夫

青 山 禎 夫

I 目 的

青森県尻屋地先は比較的エゾアワビ資源に恵まれ、県内各地に種苗用稚貝を移植している。よつて、同地方におけるアワビの実態を明らかにするため資源量、産卵期、標識による成長度等の諸調査を行った。

II 調査方法

1964年6月10～13日の干潮時に、尻屋地先約8.2kmにわたつて枠刈りを行い、各種の測定後一部を標本として使用した。

枠の規格は4m×4mとし、調査地点15、設定枠数は43とした。

標識は銀線、ニクロム線、クレモナ糸を用い硬質ビニール札を固定する方法によつた。

なお、産卵期調査については、8月より12月までに8回にわたり標本を採集し、組織学的な観察（プレパレート標本）により調べた。

III 調査内容

- (イ) 潮間帯における資源量
- (ロ) 生息エゾアワビの性状
- (ハ) 産卵期の決定
- (ニ) 標識放流
- (ホ) 種苗アワビの移植状況

IV 調査結果

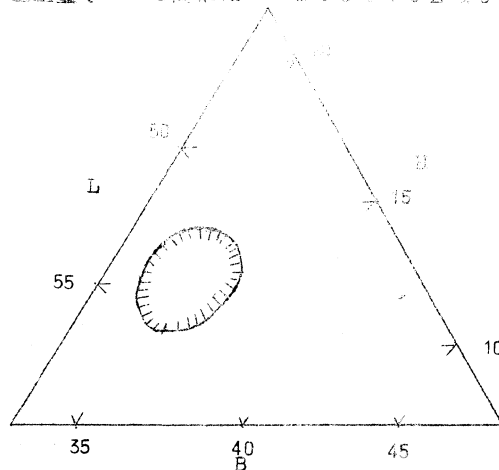
- (イ) 潮間帯における資源量

約50万個と推定される。

- (ロ) 生息エゾアワビの性状

(i) 殻長(L)、殻巾(B)、殻高(H)の間には下図のような関係が成立する。

(ii) 殻長(L)と全重量(W)の間には $W = 0.000013L^{3.06}$ の関係がある。



(Ⅲ) 全採取個体のうち、殻長 3.5 ～ 5.0 cm のものが全体の 63.6 % を占めていた。

(一) 産卵期の決定

成熟度を継続的に観察した結果から、尻屋地先におけるアワビの産卵期は 8 月中旬～ 10 月中旬と思われる。(1965 年採取の標本も使用)

(二) 標識放流

銀線 199 個、ニクロム線 255 個、クレモナ糸 666 個、合計 1,120 個について標識放流をおこなった。

(三) 種苗アワビの移殖状況 (尻屋産)

年 \ 地名	野辺地町	川内町	大間町	横浜町	計
1964	170 kg	150 kg	75 kg	60 kg	455 kg

注 (殻長 4 ～ 5 cm)

V 今後の課題及び考察

この種の調査は継続実施することによつて成果があがり、種苗用稚アワビの適正移出量も自から明らかになると思われる。

(詳細は “ 青森県尻屋地先におけるエゾアワビについてⅠ ”

“ 青森県尻屋地先におけるエゾアワビについてⅡ ” を参照)

(昭和 39 年度)

添付資料 I

稚アワビ移殖状況 (當場で直接指導したもの、又は報告のあつたもの)

放流地	購入先	放年 月 日	標 識 枚 数	全放流数
風合瀬	奥尻	37. 4. 22	353 個 153:セルロイド 200:アミラン	2,250 個
大戸瀬	奥尻	37. 4. 22	100 (アミラン糸)	2,250
沢 辺	奥尻	38. 5. 19	300 (ナイロン糸)	14,250
宮 崎	奥尻	38. 5. 17	300 (ナイロン糸)	4,800
赤 石	奥尻	39. 4. 24	300 (ナイロン糸)	4,800
霧ヶ沢	奥尻	37.4.24~25	150 (クレモナ糸)	1,200
風合瀬	奥尻	39. 4. 25	84 (クレモナ糸)	1,500
野辺地	尻屋	39.5.17~19	792 (穀井欠損)	230 kg
大 間	尻屋	39. 5. 17	55 (赤 札)	75 kg
9ヶ所			計 2,434 個	

(昭和39年度)

添付資料Ⅱ

久六島アワビ漁業の実態

(間取, その他)

4.1.5

1. 久六島の概略

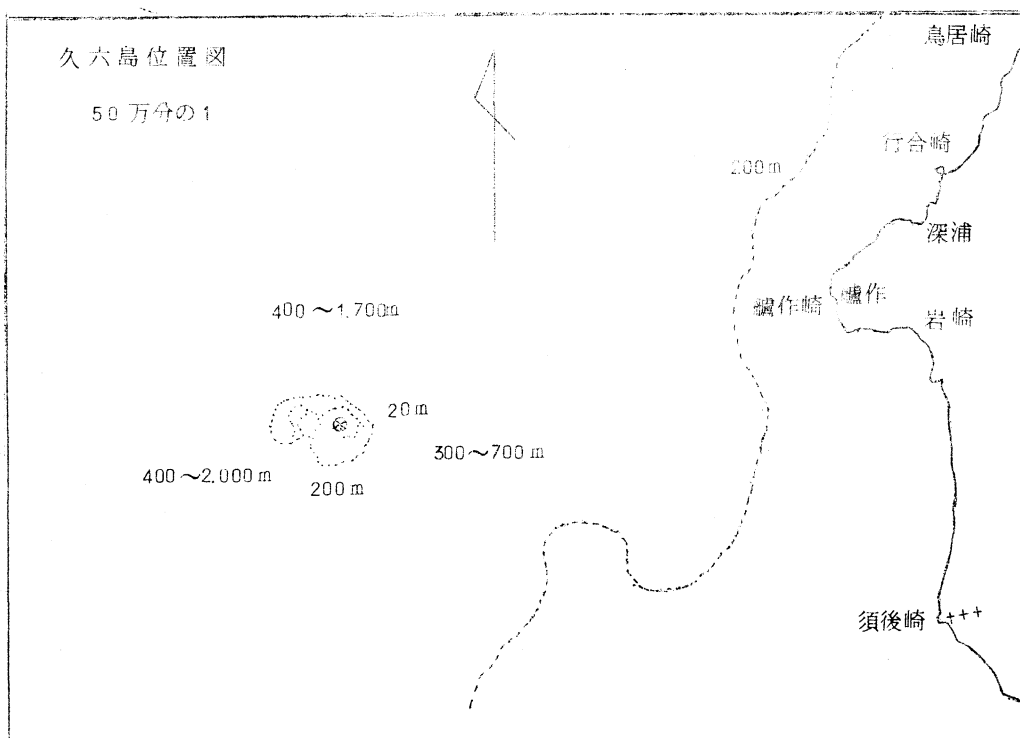
久六島は深浦港から略西南西200km程に位置し、(北緯40度31分, 東経139度30分) 島というよりもむしろ岩礁で、40m×13m, 高さ15mのものが最大で、他に3個の小岩礁がある。

岩の頂上までも海藻が生育し、波により完全に水を破る。

付近には南北の方向に根が点状に、温泉が数ヶ所湧出している。

久六島附近は岩礁が露出している部分が少く、大部分は玉石で覆われていて、直径数mに及ぶものもある。

岩礁部分をはずれると水深数百mに及び、急傾斜をなしている。潮流は南から北へ向う場合が多く、流速はかなり早い場合があり、養殖、その他の漁業の発展が制約される。



有用水族としては、

貝 類、 アワビ、 サザエ

藻 類、 ワカメ、 テングサ、 ツルアラメ

魚 類、 タナゴ、 ヤリイカ、 ソイ、 メバル、 ホッケ、 アブラメ、 マグロ、 ブリ

等あげられるが、その他ナマコ、イガイ、カキ等も棲息している。

2. 久六島のアワビについて

1) 漁 場

久六島は前記のように、その大部分が玉石で覆われているが、アワビは径1 m以下の玉石地帯にはあまり棲息しないといわれる。これは食餌海藻との関係からと思われるが、アワビの好んで棲息するのは、ツルアラメの繁茂している所である。

ツルアラメは大玉石の頂部に着生しており、従つて大玉石地帯が好漁場となつている。

ワカメは水深9～12 m位までの径0.6～1 mの玉石地帯に団塊状に分布しているが、島の北側のみに分布し、南側には分布しない。

アワビは、ワカメ場には棲息しておらず、ホンダワラは水深12 m内外の比較的小さい玉石の所に着生していて、ワカメ場と同じく、アワビは棲息しないという。

久六島の東側は潮流の最も遅い所で、この附近はタナゴ定置網の漁場となつているが、水深9～12 mで比較的浅く、ツルアラメが群生し、テングサも若干みられ、アワビの稚貝や小型のものが多く分布している。

2) 資源の増減

深浦町におけるアワビの生産量は県統計課統計及び農林省青森統計事務所資料によると、次表のとおりである。

年	青 森 県 統 計 課		農林省青森統計事務所
	漁 獲 量 (仕) (kg)	金 額 円	漁 獲 量 kg
33	12,416		
34	17,196		
35	3,445		
36	1,815	934,351	1,680
37	3,312	1,901,347	6,972
38	0	0	833
39	6	2,400	0
40	3,704	7,267,013	

禁漁のため、38、39年の久六島アワビ漁業は行なわれていない。

県統計でみると、33、34年の10,000kg以上から37年には3,000kg台に減少し、その後38、39年の禁漁後40年の水揚げも大した増加はみられていない。ただし深浦町漁業協同組合に水揚げされた久六島のアワビ、サザエは次表のとおりであり

	大アワビ	アワビ	サザエ
40年4月	2010.30kg	1,940.80kg (1,825,600円)	1,199.20 (225,861)
5月	965.10	1,161.30 (1,152,071)	5,177.90 (818,399)
6月	1,222.38	1,206.22 (1,159,546)	8,156.10 (1,082,774)
7月	471.55	314.40 (256,544)	8,809.40 (1,184,856)
3月	264.35	212.65 (159,553)	2,696.10 (352,655)
計	4,933.68	4,835.37 (4,583,314)	50,303.60 (6,841,545)

かなり回復していることになる。しかしこれらの統計資料について、なお懐疑の余地があるが、年々資源が減少傾向にあることは漁業者が等しく認めているところである。

又、38、39年の禁漁は採算割れのためにとられたが、禁漁により資源が増えたものである。

3) 増殖対策

久六島におけるアワビの増殖対策としては禁漁期の設定、操業隻数制限等消極的な手段が行なわれている程度で、積極的な手段としては、昭和30年頃に操業者が共同で北海道小島から4～5cmの稚貝を2～3千個つつ2ケ年にわたって移植した一例があるだけである。

4) その他参考事項

アワビは年によつて(環境条件によつて)石の隙間に寄っていて、採捕しにくいことがあり、このような年のアワビの呼水孔は磨滅している。

アワビとサザエの資源量は反比例の関係にある。(経験的にみて)久六島及び西海岸のサザエは近年増加傾向にある。

久六島サザエの肉質の歩留は年々悪くなっているという。

乾塩の歩留は殻付重量の12～13%である。

久六島附近略図 (聞取による)

凡 例

- 海面に露出した岩礁
- 根
- ◌ ワカメ
- ▨ テングサ

7 号 下の瀬



久六島

この付近に
記録あり

アワビ
サザエ 稚貝多し

タナゴ定置

潮

流